

鴨川下流域の拠点整備（植栽）について

鴨川下流域の拠点整備については、鴨川上流域の桜（半木の道、志波む（師範）桜、高野川の桜、花の回廊）と差別化を図り、府民が楽しみ、京都市域南部を代表するような新たな桜の名所を創出することとしております。

この度、各拠点の整備について、次のとおり取りまとめましたので御報告します。

1 ゾーニングの考え方

拠点毎に歴史、地形的要因や周辺の土地利用状況等の地域特性を踏まえ、様々な色の桜を織り交ぜて表現することにより、それぞれに個性を持たせるとともに、下流域全体として華やかさを演出する。

2 桜の見せ方

桜の専門家等の意見を聞いて、鴨川の土壤に適したものから、様々な色や異なる開花時期の桜を複数選んで植栽することにより、長い期間、様々な色が楽しめる。

3 拠点整備の考え方と整備内容

①【小枝橋～京川橋】（西高瀬背割堤部）

◇整備の考え方

他の拠点と比べて河川敷地に広がりがあり、面的な整備が可能であることを利用するとともに、鳥羽伏見の戦い跡でもあることから、歴史のランドマークとして、シンボルとなる桜を中心に様々な色の桜を植栽し、広がりのある河川空間を創出する。

◇整備内容

- ・ 枝垂れ桜を中心に濃紅紫色、濃紅色、淡紅色、白色の桜を植栽
- ・ 四季の花が楽しめる低木の植栽、休憩場所の設置

②【堀川合流部】

◇整備の考え方

若者が集まる火打形公園（スケートボードパーク）と一体的な利用ができるように動線をつなげるとともに、若者のエネルギーや多様な個性を濃く鮮やかな色の桜を中心に表現する。

◇整備内容

- ・ 濃紅紫色、濃紅色、淡紅色、白色、黄緑色の桜を植栽
- ・ 鴨川と火打形公園を結ぶ人道橋の設置
- ・ 芝広場、休憩場所の設置

③【陶化橋～竹田橋】（右岸）

◇整備の考え方

約1kmに及ぶ直線的な景観を楽しむことができる空間であることを利用して、桜の通り抜けや散策を楽しめるようにする。

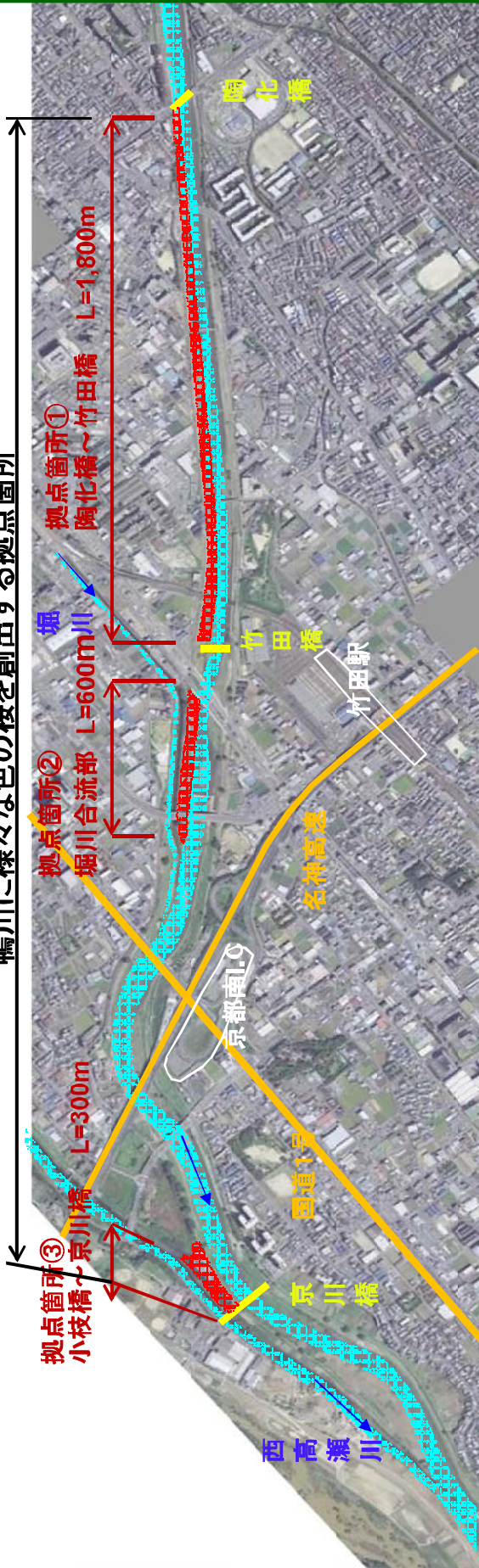
◇整備内容

- ・ 堤防に植栽できる幅を確保するための盛土
- ・ 上流域の桜と開花時期の異なる白色を基調に、濃紅色等を混ぜて植栽することにより清楚さと華やかさを演出
- ・ 四季の花が楽しめる低木の植栽、休憩場所の設置

鴨川下流域の整備イメージ

下流拠点整備区間の上流域との差別化

鴨川に様々な色の桜を創出する拠点箇所



■ 拠点整備のイメージ

小枝橋～京川橋 右岸



オカメ桜



紅枝垂れ



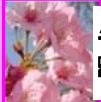
松月



関山

3月下旬 4月中旬 4月中下旬

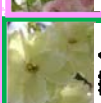
堀川合流部



陽光



オカメ桜



鬱金



松月



関山

3月中旬 3月下旬 4月上旬 4月中下旬

陶化橋～竹田橋 右岸



白妙



関山

4月中旬 4月中下旬